

事務事業評価表 平成22年度

政策 安全で快適な都市生活の充実
 施策 市街地整備の充実
 基本事業 江別の顔づくり

事業名 **江別の顔づくり事業 (連立事業 街路事業等)**

[0309]

部名	建設部	事業開始年度	平成7年度	実施計画事業認定	対象
課名	顔づくり推進室 都心整備課	事業終了年度	平成31年度	会計区分	一般会計

事務事業の目的と成果	
<p>対象</p> <p>(誰、何に対して事業を行うのか) 都心地区 (野幌駅周辺地区)</p>	<p>手段</p> <p>(事務事業の内容、やり方、手段) 都心地区整備計画の作成 (関係機関協議、市民住民の合意形成) 【経緯・今後の予定】 基本構想 (H7~H9)、素案検討 (H10~H15)、基本計画の策定 (H16)、都市計画決定 (H18)、事業実施 (H18~H31 予定) 【事業の概要】 野幌駅周辺の鉄道高架事業 (連続立体交差事業 L=約2.4km) 野幌駅周辺の都市基盤整備事業 (街路事業、まちづくり交付金)</p>
<p>意図</p> <p>(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか) 鉄道高架により 危険な踏切や交通渋滞を解消し、安全で円滑な幹線道路網の形成を図るとともに、野幌駅を中心に安全で快適な歩行者ネットワークの形成と交通バリアフリー化により野幌駅利用者と公共交通機関の利便性向上を図る。 江別らしい街並みの形成やグリーンモール 都市緑地などの緑空間を充実し、市民に安らぎと潤いを与える快適な都市空間を形成する。</p>	

事業量・コスト指標の推移						
区分		単位	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度当初
対象指標1	都心地区の面積	ha	240	240	240	240
対象指標2						
活動指標1	関係機関協議回数	回	7	4	1	3
活動指標2	市民・住民に対する事業計画説明回数	回	2	3	3	1
成果指標1	連立事業の進捗率 (累計)	%	57	64	76	91
成果指標2	街路事業の進捗率 (累計)	%	50	50	50	50
単位コスト指標						
事業費計 (A)		千円	171,306	238,229	370,973	313,674
正職員人件費 (B)		千円	37,683	37,611	37,341	37,476
総事業費 (A) + (B)		千円	208,989	275,840	408,314	351,150

費用内訳	
21年度	旅費 72千円、需用費 49千円、役務費 19千円、負担金 補助及び交付金 370,833千円

事業を取り巻く環境変化

事業開始背景	江別の顔づくり事業は、市長公約第4次総合計画「15万人都市プラン」の政策基軸に位置付けられ、H7年度より都心地区整備計画の検討を開始した。	事業を取り巻く環境変化	江別の顔づくり「事業」は、市の行財政改革と整合を図り市の身の丈（財政計画）にあった事業規模として、高い事業効果が求められている。 【事業の進捗等】 ・都心地区整備基本計画」の市民公表（H17年6月） ・連立事業、区画整理、街路事業の都市計画決定（H18年6月20日） ・連立事業の事業認可（H18年11月9日） ・中原通（1工区）の事業認可（H19年6月14日） ・中原通（2工区）及び南大通の事業認可（H21年7月10日）
--------	---	-------------	--

21年度の実績による事業課の評価（7月時点）

(1)税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？

義務的事務事業
妥当である
妥当性が低い

理由・
根拠は？

幹線道路等の交通基盤整備は、市民の円滑な都市活動と安全で快適な都市生活を支えるインフラ整備であり市が行うことは妥当である。（都市計画法に基づいて実施する都市計画事業である。）

(2)上位の基本事業への貢献度は大きいですか？

貢献度大きい
貢献度ふつう
貢献度小さい
基礎的事務事業

理由・
根拠は？

市民の「安全で快適な都市生活」の充実に大きく貢献する。
・南北市街地の連絡が強化される。
・都市交通の利便性が格段に上がる。

(3)計画どおりに成果はあがっていますか？計画どおりに成果がでていない理由、でていない理由は何ですか？

あがっている
どちらかといえばあがっている
あがらない

理由・
根拠は？

平成18年6月20日に「江別の顔づくり事業」に係る都市計画決定を行うとともに、同年11月9日に連続立体交差事業の事業認可を取得し、事業に着手している。

(4)成果が向上する余地（可能性）は、ありますか？その理由は何ですか？

成果向上余地 大
成果向上余地 中
成果向上余地 小・なし

理由・
根拠は？

「江別の顔づくり事業」は、市民住民からの意見・要望が多く寄せられるなど、市民の関心の高い事業であることから、今後、事業の円滑な展開を図っていくためには、より一層の市民・住民との話し合いや情報提供に努める。

(5)現状の成果を落とさずにコスト（予算＋所要時間）を削減する新たな方法はありませんか？（受益者負担含む）

ある
ない

理由・
根拠は？

連続立体交差事業に係る市負担金については、事業主体である北海道との協定書に基づき負担しているものであり、コストの削減は難しい。また、事務経費等についても、これまで最小限の予算で事務事業を進めているため、コストの削減は難しい。